



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
www.habanasu.com/dohekiren

委員 長 梅 木 登 喜 雄

編集責任者 油 谷 諭

印刷所 土 田 工 房

勇払郡安平町早来栄町19 Tel (0145) 22-2023

題字 書家 濱谷彩鶴 (はまや・さいかく) 氏

大学のへき地教育の取り組みに学び 大学との連携を通じた新たな展望を！

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 梅 木 登喜雄



はじめに、今年度の第56回の全道へき地複式教育研究大会空知大会と次年度開催予定の檜山プレ大会、並びに第23回の実践研究発表大会の開催に対し、全道各地の会員はもとより、多くの教育関係者の皆様にご支援、ご協力をいただきましたことに衷心より厚くお礼を申し上げます。

全道のへき地・複式教育に携わる教師が一堂に会し、共同研究の成果について忌憚のない議論を交わす場として、過去半世紀以上に渡り受け継がれてきた研究大会は現在も健在であります。このことは、多くの研究団体が組織的にも財政的にも受難な時代を迎えている中、へき地教師のもつDNAがしっかりと受け継がれている証であります。私たちの先達が過去多くの労苦を共にしながら切り拓いてきた研究の道をこれからも閉ざすことなく、多岐に渡る研究課題の解決に向けて最善を尽くしたいと考えます。研究の深化・充実を図るためには、組織の充実と発展が不可欠であります。ここ数年厳しい条件下にあります、**「次につなぐ」**ための確かな実践を進めることは、その時々へのき地教師に

与えられた責務と考えます。また、こうした**「つなぐ」**の中からは新たな展望は見出せないと思うのですが、如何でしょうか。

さて、昨年暮、札幌でへき地教育を地域課題とする全国の5つの大学によるフォーラム**「へき地教育と教師教育」**に参加する機会がありました。現職教員の研修に任されていた従来の教員養成の形を超え、今後のへき地教育を担う教師教育の在り方を探るものであります。各大学の取り組みと合わせ、当連盟のへき地校からの提言発表もあり、大学教員と現場教師が共通の場で討論できた評価に値する内容でありました。大学の発表には、へき地校体験や複式授業体験等の実践発表もあり、教師の卵である大学生の教師教育に大きな力となっていることも実感しました。このように全国の大学がへき地教育に関わって取り組みを行っていることは私たちに大きな力を与えてくれています。次年度も一層大学との連携を深めながら、実践活動の糧としたいと考えます。

終わりに、次年度予定されている**「へき地指定基準の見直し」**、**「へき地級地の見直し」**ではありますが、不透明な状況で年度を越しそうです。道へき・複連、全へき連として今後も適正な改正に向けた要望をして参ります。